

「人作り・人材育成」－研修業務への我々の取り組み－

第4回：開発調査、専門家派遣業務に伴うカウンターパート研修

JICAが国内で実施している技術研修は、大きく集団型研修と個別型研修に分けることができる。前号までは主に筑波国際センターにおける集団型研修とそのフォローアップについて述べてきた。個別型研修のひとつにカウンターパート研修があり、これは開発調査の調査団や派遣専門家のカウンターパートに対する研修である。基本的には実施中の開発調査や専門家派遣業務に関連した専門分野での研修プログラムが設定され、それに沿った技術研修が実施されるが、研修を通して日本への理解を深めてもらうことも、本研修の重要な役割となっている。帰国後は現地の調査団や専門家と協力してプロジェクトを実施していくことが望まれている。

国際耕種は1992年以降、下の表に示すようなカウンターパート研修を実施してきた。これまでは、全プログラム中の一部研修（例えば、農業普及やGIS）を担当する機会が多かったが、最近のオマーン国マングローブの開発調査では、研修プログラムの策定そのものにも関わった。

開発調査／専門家派遣	研修時期／人数	研修目的	研修内容
オマーン国マングローブ林再生、保全、管理計画調査（開調）	2003年3月から2回、計4名	干潟保全活動、水産資源管理、GIS、森林保全	干潟の保全再生に関する市民活動の紹介、水産資源管理、栽培漁業、人工漁礁に関する情報収集、GIS利用技術の紹介
ラオス国メコン河沿岸貧困地域小規模農村環境改善計画調査（開調）	2000年2月、1名	農業普及	横須賀三浦地域農業改良普及センターにおける普及活動の紹介と農家及び農業共同組合の活動紹介
オマーン国ネジド地方農業開発計画（専門家派遣）	1998年8月、1名	水士壌管理	GIS利用技術の紹介と利用技術のデモ、静岡大学付属農場並びに乾燥地施設見学、鳥取大学乾燥地研究センター及びTRT見学
ヴェトナム国モデル酸性硫酸塩土壌造林技術開発計画（専門家派遣）	1997年12月から5回、計7名	林業研究訓練、森林土壌、造林	GIS利用技術の紹介、植林手法の紹介とデモンストレーション、地域緑化事業の見学、育苗及び植栽技術の実習
シリア国農業普及改善計画（専門家派遣）	1994年5月から2回、計2名	農業普及	農業改良普及所における普及活動の紹介、村おこし活動の紹介、周辺農家及び農業共同組合の活動の紹介
インドネシア国ローカン川流域灌漑開発計画調査（開調）	1992年8月、1名	灌漑施設	静岡県大井川水系における取水及び送水施設並びに灌漑関連施設の見学、農林省地方農政局における各種活動の見学

開発調査の調査団員や派遣専門家の立場としては、研修の機会を与えることでカウンターパート達にやる気を出させることはかなり重要なことである。また、現地での業務の遂行中には行き届かない部分の技術移転が、国内の研修で補完されることも極めて重要であると感じている。さらに、日本での研修を経験したカウンターパートは多くの場合、日本が好きになって帰って行く。その場合には、カウンターパート帰国後の開発調査や専門家派遣業務の活性化に対して大きな役割を担う。一方、国内での研修を担当する立場としては、研修をアレンジする過程で見学先等との新しいネットワークを確立することが出来、こうしたネットワークは他の研修活動やその後の技術交流の場の拡大にも役立つ場合が多い。さらに、国内での研修経験者が現地でカウンターパートになる場合には、非経験者に比べてより充実したチームワークが生まれ易いと感じている。

このように、カウンターパート研修は本人に対する研修効果に加えて他への波及効果も極めて大きい。実際にこれまで、筑波国際センターでの研修経験者がシリアでの専門家派遣業務やタンザニアでの開発調査のカウンターパートになり、そのお陰で現地での活動が極めてスムーズに進んだという経験もある。そのため、国際耕種ではカウンターパート研修を技術交流、情報収集、交流拡大の重要な柱として位置づけており、研修ニーズの把握と適切な研修計画の策定に力を注いでいる。ここで最も重要なことは、現地サイドのスタッフと国内で研修を計画実施するスタッフのコミュニケーションである。公式書類だけでは研修ニーズの詳細が伝わらないことが多いため、補足的に現地からの詳細な要望を伝えることにしている。また、国内では研修を単なる業務としてこなすことなく、レクリエーションを盛り込んだり、買い物に付き合ったりしながら、アットホームな雰囲気の中で研修をエンジョイしてもらえようように努めている。今後とも、効果的な研修を実施するための努力を続けたい。